

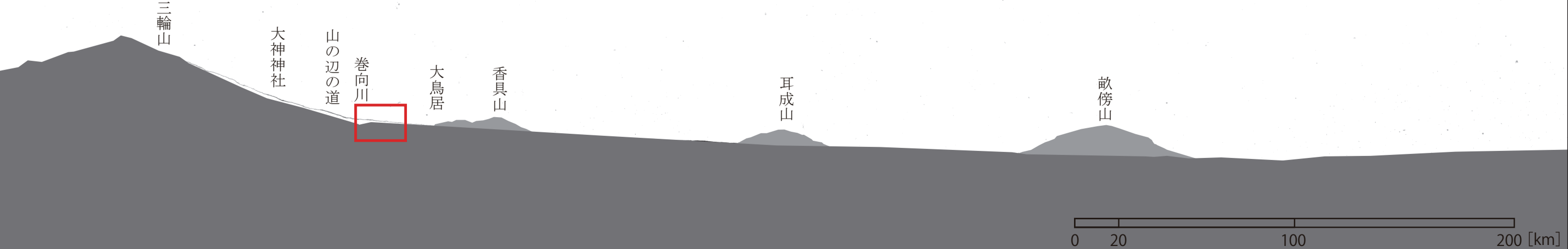


三輪山と大鳥居

Concept

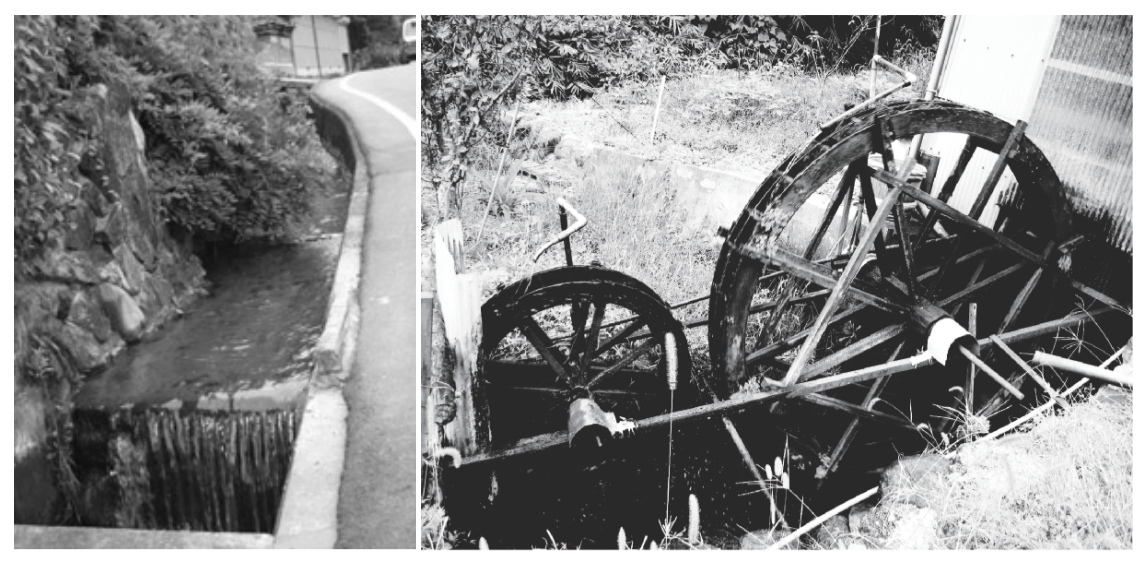
山から水が流れる場であるとともに
 山の辺の道が神域に入っていき境界におよぶ
 また水力により三輪素麺を発達させた
 観光客、集落住民、地域住民が
 同じ風景の中で交流する事で
 風景に気づき、風景を知り、風景の中で暮らす事を再確認する場を作る
 それは信仰によって出来た風景とは異なる山と繋がる風景となる
 山を感じる事が交流を生み
 既存民家、建築群の作る領域の重なりを山の辺の道
 風景の中の交流を生む場に変える
 そこでの活動が山に連なっていき
 風景と生活の境界で新たな交流、活動を生み
 その活動が新しい尾根線をつくり
 それが新しい風景となる

Field Survey Phase 1



Field Survey Phase 2

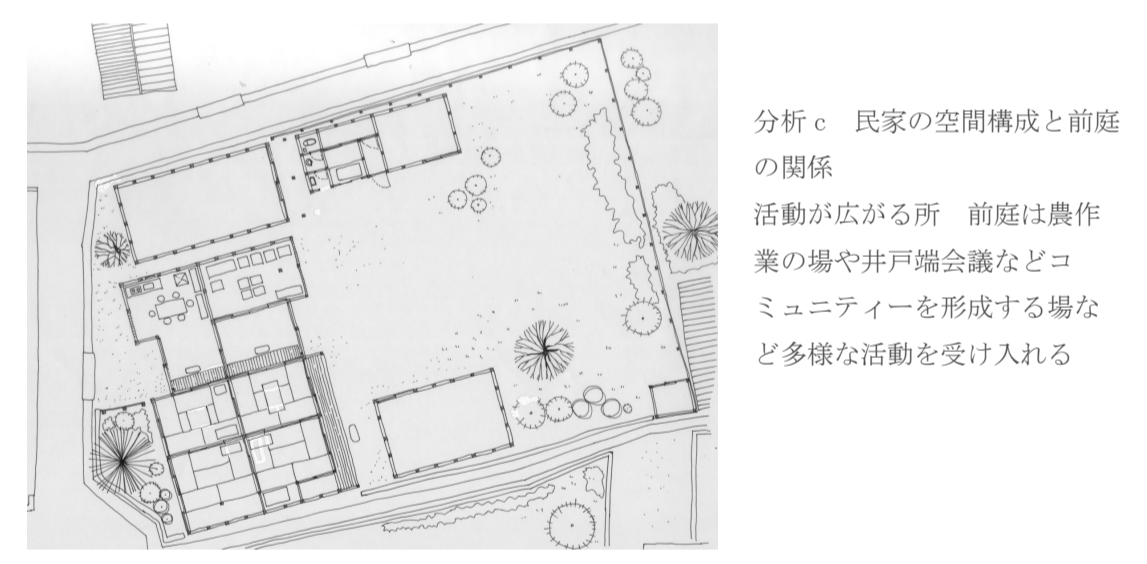
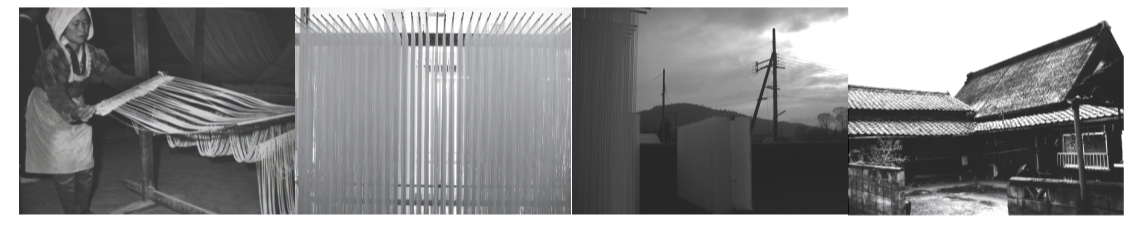
水が近くなる場所で内が外に接し、そこでコミュニティが形成されている



分析 a 水のコンテクスト
 水と人が近づく場所 水車があったと分かっている所、また道路と水面が10cm程まで近づく所、しゃがめば水に触れる事が出来る所、水を近くに感じる所が道沿いの各所にある。そういった所では生活の痕跡が残っており、ヒアリングからも日常的に使用する事が分かった。

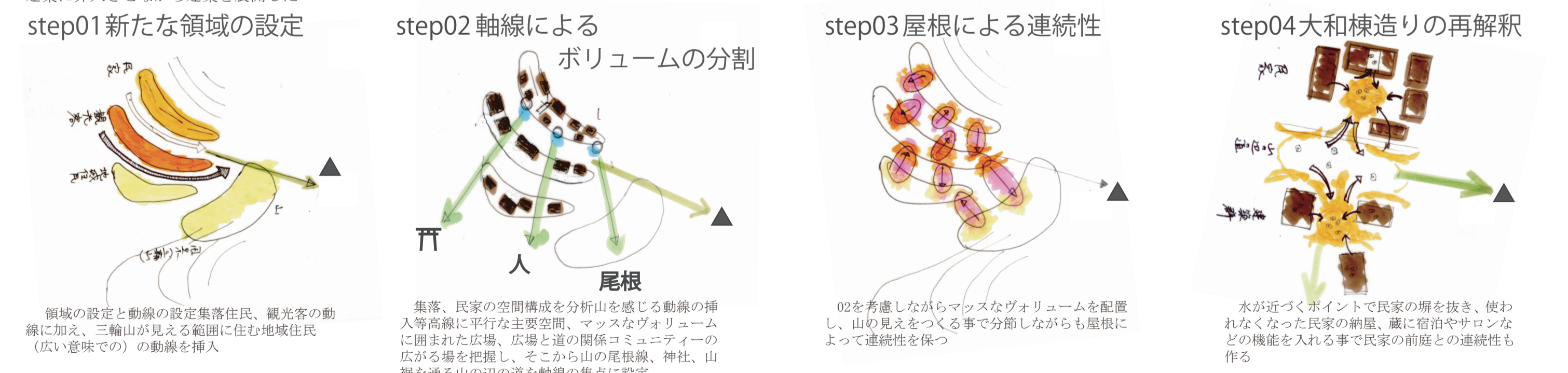


分析 b コミュニティが形成される場
 道への活動の広がり 前庭が通りに接する部分、水が近くなる部分でコミュニティが形成されている

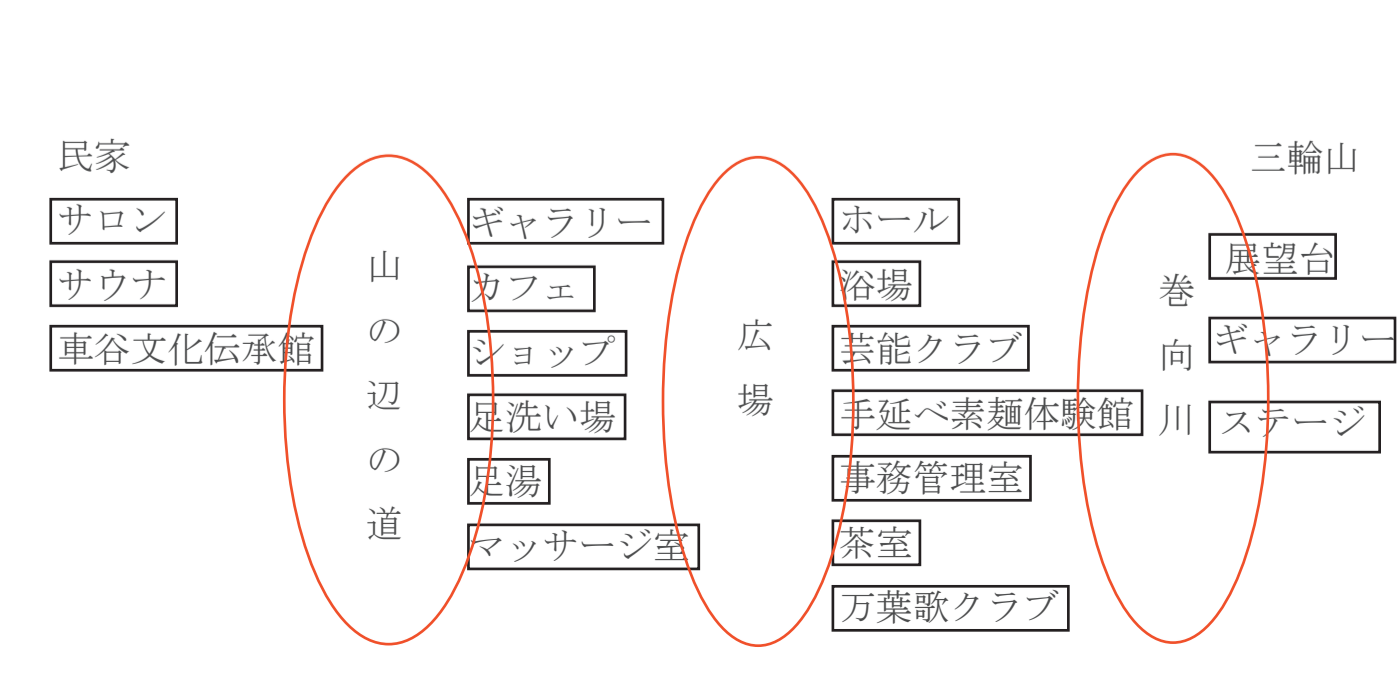


Diagram

民家、観光客、地域住民の領域を設定し、山への軸線によりそれらの領域を崩す事で風景を建築に介入させながら建築を展開した



Prpgram



Design Concept

